三菱航空機株式会社

三菱航空機ニュース No. 3　　2008 年 9 月 4 日

# 三菱航空機、ボーイング社と支援契約締結

三菱航空機は、ボーイング社との間で支援契約を締結し、ボーイング社から次世代リージョナルジェット機 MRJ（Mitsubishi Regional Jet）の航空機開発、販売、カスタマー・サポート分野に関するコンサルティングを受けることになった。今回締結した契約により、三菱航空機は、ボーイングが永年にわたり蓄積してきた民間航空機事業に関する知識を活用できることになる。

三菱航空機社長、戸田信雄は「今回のボーイング社との合意は、三菱重工業との永年のパートナー関係に基づくもので、環境、乗客、エアラインを重視し、快適な空の旅を実現するMRJの成功に大きく貢献するとともに、我々の関係をより強固なものにする」と述べた。

ボーイング ジャパンのニコール・パイアセキ社長は「MRJは、日本にとって非常に重要なプロジェクトであると理解しており、この契約の合意は大変喜ばしい。三菱重工業とは長い年月ワーキング・パートナーであり、MRJに対する支援ができることを名誉と思っている」と語った。

三菱重工業はこれまでに、747、767、777、787などのボーイング社のプロジェクトを支援しており、787では、大型民間機として世界で初めて採用された複合材主翼を担当している。ボーイング社が自社以外に主翼を開発・製造させるのは三菱重工業が世界で初めてである。

MRJ プロジェクトには、最新鋭の高効率エンジン「PurePower™ PW1000G」(注 1) を供給するプラット・アンド・ホイットニーのほか、パーカー・エアロスペース（油圧システム担当）、ハミルトン・サンドストランド（電源、空調、補助動力などの各システム担当）、ロックウェル・コリンズ（フライト・コントロール・コンピューター、アビオニクス担当）、ナブテスコ（フライト・コントロール・アクチュエーター担当）、住友精密工業（降着システム担当）の各社が主要なパートナーとして参加する。

MRJ は 2011 年に初飛行、飛行試験期間を経て、2013 年に納入を開始する予定。

(注 1)　PurePower™ PW1000G は、以前、ギアド・ターボファン(GTF)エンジンと呼ばれていた。

## 三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社は、MRJ の設計、型式証明取得、調達、販売、カスタマー・サポートなどを担当する MRJ 事業会社として 2008 年 4 月 1 日に事業を開始した。現在の資本金は 700 億円で、三菱重工業が 67.5%を出資している。他には、トヨタ自動車が 10%、三菱商事が 10%、住友商事が 5%、三井物産が 5%を出資している。

MRJについて

MRJは、三菱重工業がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた、世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに当社が開発する世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた70～90席クラスの次世代リージョナルジェット機。リージョナル機として初めて主翼、尾翼に複合材を本格的に採用、新型エンジンの搭載や最先端の空力設計などにより、燃費の大幅な低減を実現、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献する。最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する、環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。

ボーイング社について

ボーイング社は、40年以上にわたり民間航空機の主要なメーカーである。ボーイング民間航空機部門は、航空機運用会社と乗客に最大の関心を払うことにより民間航空機分野で世界のリーダーの位置を占めている。現在の主な機材ラインナップは、737型、747型、767型、777型、およびボーイング・ビジネスジェット。次世代民間機として787ドリームライナーと747-8型の開発が進行している。現在就航中の航空機の約75%にあたる、12,000機のボーイング社製民間航空機が世界中で運航されている。

以上